日刊 但日曜祭日翌日休刊 一ヶ月二十五錢 郵税十五錢 一部二錢 廣告料一行 四十錢 場所指定 貳拾錢增 發行兼編輯印刷人 平谷政 發行所 福島縣平町大町二三 新いわき新聞社

舗装道路下の水道管に故障
想像された困難が事實化し 頭を惱める平水道部

平町に施工中の國道舗裝は路面を擔壁される點に於て申分はないが五寸乃至七寸厚のコンクリートで固められた下部に埋設する水道管及び瓦斯管等の故障の際その修理に困難するであらうとは一般から想像されてゐた所であるが果せるかな今回同町本通り四丁目平郵便局前の舗裝下に水道水管の引込線が破裂してコンクリートの舗裝面に打挾むアスアルトの間隙から相當の水量を滲み出してゐる修繕の厄介さに當面して前記の想像を事實化された町水道部では斯樣な事故が今後各所に發生さるれば例へば表面に於ける水の滲透個所を破つても必ずその直下に故障があるとは限らずまことに困つたことであると頭を惱まされてゐる

常識講座

ヘジテーションは狐疑即ち疑ひためらふて躊躇し二の足をふむの類 ヘジテートは狐疑する躊躇するの謂、ペーシエンスと云へば逡巡するものと逆に忍耐、堪忍、辛抱の意である。

借た金は返したが擔保品を戻されず
平署に横領の告訴する

石城郡内鄕村の綴字金坂五六佐藤清七（五八）は去る昭和六年安達郡山木屋字細畑に居住中同地の廣野千次（四六）に衣類及び二厘錢二千枚と一圓銀貨一枚を擔保として十二圓五十錢を借受けてゐたが本年九月に至り廣野から元利を淸算する二十一圓五十錢の請求を受けたので内金十九圓五十錢支拂ひ前記の擔保品を取戻さうとすると衣類の如きは散々に着古されてゐる模樣なので兎に角殘金二圓を携へ此の程千次方を訪ねると同人は同所を去つて行方不明のため平署に横領の告訴をなした

石城兵事主任の事務研究會

平署管下外植田、四倉兩署管内に於ける石城全郡の各町村兵事主任會は來る十八日頃平署會議室に開催の筈であるが同會の出席は右主任の外町村長の來會を合せて五十餘名に達するもの〻如くである

昔乍らの闘所
俵米の密移送 勿來で摑まる
トラックで五三俵を運ぶ 須賀川町の移出米商

岩瀬郡須賀川町の米穀商二瓶金之助（四五）は同町に於ての移出商であるが從來制規の檢査を受けず他縣への移送を行ひ縣から嚴重なる戒告を受けてゐるに拘はらず地元須賀川町近在で買ひ集めた俵米九十三俵を去月二十三日夜半トラックに積載茨城縣大津町に賣却しての歸途翌午前一時頃勿來町地内國道で監視取締中の同町穀檢出張所遠藤主任外一名に取押へられ今七日松本平穀檢支所長から平署に告發されたが端境期の昨今は各地にザラ取引が行はれ他府縣移出の場合一俵に付て十錢づゝの檢査手數料をけしみ密移送をなすものあるので其の筋では引續き嚴重なる警戒中であると

平町明春の就學兒童
六百十二人

平町に於ける明春の就學兒童數は本籍二一九寄留三九七計六百十二名（男三二三女二八九）で前年に較べて僅かに三名の增加であつて一昨年六百七十二名を算したものから實に六十三名を減じた昨年の六百九名以來遲々として振はず發展途上を謳歌される同町に一沫の寂しさを呈してゐるが町内三ヶ校の割當ては左記の如くである

第一校一九七（本籍六五、寄留一三二）第二校一九〇（本籍六〇、寄留一三〇）第三校二二五（本籍男九〇女四〇、寄留男七六女五九）

石城の大麥 現在高
精々七百俵か

平穀檢支所では目下開會中の本縣會に於て唱ひられてゐる冷害凶作地に對する救濟策として行はれるらしい施給或は安價供給の大麥を愈よ縣に於て買上げられる場合の同現在高を縣の同牒によつて急遽調査中であるが勿來、四倉兩出張所管内共に今日となつては殘存に乏しく買上應諾は精々六、七百俵でないかと見られてゐる

泉村農産品評會

石城郡泉村農會主催の農産物品評會は昨六日から今七日の二日間同村小學校に於て開催され審査長は郡農會の青山技師である

石城町村長支會評議員會

石城郡町村長支會では今七日午前十時平町會議事堂に評議員會を開き平公園忠魂碑前に奉納される同町傷痍軍人寄贈の石燈籠二基の建設位置その他を附議した

中堅農講生の現地講習

石城郡農會中堅農民講習會は來る十日同郡縣農試分場に於ける農試本場の内山技師が講演する金肥の使用に就ての特別農事講習を學んだ後同場内を視察現地講習をなすと

氣狂ひの一念 夫を追ふ
岩沼驛から只乘りを 發見され平で保護

宮城縣伊具郡抜野村の長沼一〇生れ引地とめよ（三七）は昨六日岩沼驛から亘理までの切符を求めて乘車したまゝ下車せずに居るのを車掌のため發見され午後三時十二分平驛着と同時に引下されて平署に渡されたが同婦は岩沼町の飲食店に奉公の現在を夜の客を取らねば飯を食はせぬため逃げ出したと云ふが夫引地德次郎が情婦と共に當時横須賀市田浦に同棲して自分を省みてくれない所から精神に異狀を呈し各地を漂浪してゐるもの〻由で列車の無談乘越しは夫の居る横須賀市まで行かう心算であつたものと判り今七日前記鄕里の實兄佐藤義廣の迎ひに引渡された

愛婦主催の 圖畫書方 展覽會

平町愛國婦人會分會では來る二十三日の皇太子殿下御降誕日をトし町内各小學校生徒の圖畫及び書方展を開催し成績優良者に賞品を贈る外當日町内幼稚園の兒童に記念の菓子一と包づゝを贈與すると

内地に出た鮮人の行方を搜索願

朝鮮慶南道昌慶郡樓房面巨南里金貫胡の長男金乙仙（二八）は去る昭和六年内地に行つて稼いで來ると出かけたまゝ音信不通で所在が判らず前記實父が八方搜索してゐたところ最近に至り石城郡方面に居るらしい風聞があるので炭鑛に居るか又は飴行商でもしてゐるのでないかと今七日平署に搜索方を願出た

非國民の檢擧に 詐欺もばれる

石城郡内鄕村の綴居住磐城炭鑛坑夫伊達郡石戸村の石田高島豊次郎（二八）が去る八月鄕里で執行の簡閲點呼に病氣の如く僞電報を打ち不參したことは既報の如く平署に發覺して今七日檢擧取調べ中であるが同人は右陸軍召集規則違反をなしたのみでなく去る十一月一日から同月二十五日までの間に於て既に購買濟みになつてゐる磐炭の傳票を使用して同會社から米、砂糖その他二十五圓六十錢分を詐欺してゐることまで發覺した

新史蹟抄 三箱の湯本城趾に就て（2）
吉野朝臣廣橋經泰が常奥海道經略の本據（勿來學人）

僞の後、予は他の研究に沒頭して、鄕土の之が史實と闡く遠ざかつてゐたところ、先月二十三日、湯本町の有志某等が、予の茅庵を突然訪問せられて、湯本城の勤王所以を簡單に急作されんことを請はれた。故に予は之に對して何等の用意もなかつたが、該の根本史料とも云ふべき飯野、岡本、相馬、岡田、石川、結城、南部文書、源流無盡などを基礎に、其の他闘城繹史乃至は底倉記てふ俗書の文も姑く假引し、且城址と壘趾の寫眞二葉を押入して。翌日朝より午後三時まで費して大ザッパに執筆稿成し、四時に至り右の有志者に届けた次第である。すると月末に印刷が出來上つて、予の許へ十部ほど送付けて來たのが、次に轉掲するものである。固より予が直接校正したのでなく、印刷所員委せの校了なるゆゑ、脫字、誤植が少からざるも、三箱湯本城の義烈の跡が、大略之で社會に知られゝば、予の滿足は充分である。

但し該の印刷文の原題は、「三箱城勤王事略」と酩打つたが、史料に見なれた名は『三箱ノ湯本城、同湯本館』である。元來當地の名は三箱が眞實なことは、拾遺歌辭で明證され、湯本とは温泉の出づる所は、何處でもさう號づけてをるから、單に湯本城と云ふだけでは何國何村の湯本城であるか辨からぬくならう。

大歡記（一）
滿蒔莊

◎大内山に瑞祥みちみちて禁庭の松常盤の色深く千歲の榮えこゝに目出度義宮正仁親王殿下の御生誕に加へて皇弟澄宮崇仁親王殿下御成年に達せられ新宮家を御創立あらせられ三笠宮と御稱號を賜せらるゝなど竹の園生の御さかえいよいよ榮く國民擧りて萬歲の慶祝を奉るに日もこれ足らざる有樣誠に歡喜ペン舞手の舞ひ足の踏む所を知らずと申すべき次第で御座います 皇子殿下の御生誕についてはさきに劣句をものして聊か祝意を表しました こゝに三笠宮樣の御祝ひとして左の二句を詠じました

謹祝

日のめぐみ殘菊薰るあしたかな

小春日や三笠の山はあざやかに

又この皇室の御繁榮を祝し奉りまして左の句を詠みました

週報 小名濱測候所 氣溫

		平均溫度 攝氏	最高溫度 攝氏	最低溫度 攝氏
十一月廿八日	本年	7.5	9.6	5.0
	昨年	5.8	13.4	99.0
	平年	7.3	13.0	2.1
廿九日	本年	8.8	14.3	4.5
	昨年	3.5	8.7	98.3
	平年	6.8	12.3	1.6
卅日	本年	4.0	10.3	99.4
	昨年	4.3	10.2	99.3
	平年	6.9	12.1	1.3
十二月一日	本年	7.7	12.5	98.5
	昨年	4.7	10.2	99.9
	平年	7.4	13.0	1.9
二日	本年	11.3	16.8	6.9
	昨年	4.9	12.9	98.9
	平年	7.2	13.3	1.7
三日	本年	6.2	10.7	2.3
	昨年	5.1	8.7	1.3
	平年	7.2	12.3	2.0
四日	本年	6.4	12.4	1.0
	昨年	5.3	7.3	4.0
	平年	6.7	11.8	1.5

洋服は…髙島屋
（髙）髙島屋洋服店 平 電三八六

米の利用厚生

米の利用厚生（3）

農試本場の同係

三分搗き位にすれば麹、甘酒等の原料となり、その麹は澱物、白酒、味噌等を造るに利用せられる、又粒の儘麦芽を加へて糖化して飴とし或は酸を加へて蓚酸鹽を造つて砂糖の代用にすることも出來る、更に進んでは燒酎、米澱粉、澱粉糖綱精等の工業的原料にも使用せられる、尚ほ屑米の一部は普通米に適當に混じて飯用とし或は屑物は飼料として用ひられることは一般に知らして用ひられる所で、其の他よく〳〵の屑は焦燒にして惡臭の吸收劑や家畜の整腸劑として特殊の用途に當てることが出來る、

米の加工及び利用法

イ、麹

麹にする屑米は大粒がよいから先づ篩で大粒と小粒に分け大粒だけを三分搗位にして用ひる（若し碎けそうなれば搗かぬでもよい）水に浸漬は玄米なれば一晝夜、三分搗なれば十時間位にしてセイロで蒸す、手にねれる位に蒸けたならば山形に積み熱湯の少量を撒布し濕れ布に蓆等で覆ひ約三、四時間放置し、後切崩して種麹を加へ（一石に對して二十匁）平均または鹽籠に蓆を敷き（一枚は濕れ蓆、一枚は乾燥蓆とする）此の上に一寸五分厚さ位に撒げ新聞紙を覆ひ、華氏八十五度位の室温の處（押入、戸棚、木箱）に置くか又は大釜の下底に少量の湯を置き上部に平籠を積み重ね、釜を埋火で保温するもよし、或はお櫃の中に筵をふせて周圍に蒸米を入れ炬燵で保温してもよい、

ガソリン　モビール油
日本石油株式會社
特約販賣
屋内油問屋
油内店
支店　郡山市驛前通　電話長三二八
支店　茨城縣關本驛前　電話長平潟七三
油槽出張所　平町四丁目　郵便局前
電話長　16　磐城平

内科、小兒科、
大森整形外科病院
醫學士　大森勇
平町郎町　電二五八番
入院　應需

債券　公債　兩替　金融
多田井賣店
平町大工町　電五九一番

便利で經濟な　日下家政婦會の
派出婦を御利用下さいませ
身元確かで品行方正ですから何をお任せしてもご安心です
平町字田町十八番地（西村屋横町）
日下家政婦會
會長　日下すい子
電話（呼）一八九番
會員（同志）の御加入を御誘ひ致します　派出なき際は裁縫や編物を御教授致します

お醤油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
醬油味噌　たひら正宗　鰹節食料品
電話一番　本店二一〇番
磐城平
山崎與三郎

明治生命磐城代理店

祝七五三子供洋品陳列
●新型オーバー特價賣出し。
ツルヤ
平四　電話一四〇番

（磐城共濟病院）福島縣平町電六四一
内科　院長　醫學博士　石山讓郎（電話六四一番）
小兒科　部長　醫學博士　岩佐尚輔
婦人科　部長　醫學士　黒澤廣
外科耳鼻咽喉科　部長　醫學士　大町久藏
皮膚泌尿器病科花柳病科　部長　醫學士　前澤正郎（電話二七二番）
X線療科　醫學博士　石山謙彪
藥局　技術員　石本孝平
事務長　鈴木寶雄
（毎日午前八時より午後十時迄診療）
●…病室完備　…入院隨意　…●

好評噴々
たる各種優秀藥
大衆酵母劑　カクレ（三十三日分）定價一圓五錢
強力驅毒劑　スピロイン（定價三圓三圓）（六回十回）
平町五丁目角
特約販賣店　山野邊藥局

農村の更生振興に
天然加里肥
最も適應する作物！
蔬菜　馬鈴薯　里芋　しやうが類
◎茄果類ではトマト茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◎如何に施用しても土壌を惡變する憂は絶對にありません
一俵　廿五錢（大量取引は特に割引致します）
製造販賣　金成國雄
平町鉢田　電話六八八番
貨物自動車の御用命に應じます

石炭　コークス　豆炭
平町郵便局通り
水野石炭店
電話二九九番

雨露に曲げず　強く太く　堅実な
野口證券
日歩金一銭五厘
絶對にはぜあいやけあいくさうあいのない
設備完全で安心のできる
◎金屋商店

入院應需
明雲堂眼科醫院
平驛前　電六六九番
●自次の便あり●

スペインG・H・N元詰
ゴルフボートワイン
甘味葡萄酒　1・10
婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
（平2）　西村屋藥舗　（電3）

平町紺屋町
藤沼醫院
電五〇七番